

町内遺跡発掘調査報告書 1998

—平成10年度試掘調査報告書—

1999.3

坂 城 町 教 育 委 員 会

例 言

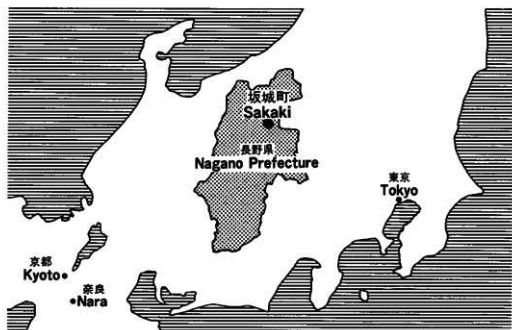
- 1 本書は、長野県埴科郡坂城町における開発事業に伴う、平成10年度の町内遺跡の試掘調査の報告書である。
- 2 調査の費用は、国庫及び県費の補助を得て町費で対応した。
- 3 調査の体制
調査指導者 塩入 秀敏（上田女子短期大学教授、日本考古学協会会員）
担当者 助川 朋広（坂城町教育委員会学芸員）
協力者 天田澄子、宮尾美代子、宮島珠子（以上、町臨時職員）
- 4 事務局の構成は以下のとおりである。
教育長 大橋 幸文
生涯学習課長 赤池 利博 文化財係長 池田美智康
文化財係 助川 朋広（前 出）、関 亨、天田澄子、塚田さゆり、宮尾美代子、
宮島珠子（以上、町臨時職員）
- 5 本書の執筆・編集は塩入・助川が行った。
- 6 本書及び調査に関する資料は、坂城町教育委員会の責任下において保管されている。

凡 例

- 1 本文中の面積は、開発対象面積を記載し、() 内に調査面積を記載した。
- 2 挿図の縮尺は、各図ごとに縮尺を示した。

目次

例言	
凡例	
第I章 坂城町の遺跡の立地と環境	1
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第II章 調査の結果	6
1 島遺跡	6
2 四ツ屋遺跡群	8
3 上五明条里水田址7	10
4 寺浦遺跡	12
5 上五明条里水田址8	14
6 田町遺跡群	16
7 上町遺跡	18
抄録	



長野県埴科郡坂城町位置図

第 I 章 坂城町の遺跡の立地と環境

1) 地理的環境

坂城町は、東信濃と北信濃の接触点にあたり、善光寺平を構成する更埴地方の最南端に位置している。県の東部から北部を貫通する千曲川は、佐久地方を経て上田・小県盆地の北端である千曲川右岸に位置する塩尻の岩鼻と、左岸に位置する半過の岩鼻から、「坂城広谷」と呼ばれる貫通谷である沖積盆地をつくりだしている。そして、坂城町の北側に位置する横吹きの岩壁をかすめて、戸倉・上山田の沖積地へと続いていく。

坂城町は、南では、両岩鼻が千曲川断層面の岩壁となり、東では、太郎山・鏡台山とを南北に続く山稜が、上田・真田・更埴の市町村界となり、五里ヶ峰から葛尾山、横吹きと自在山の岩壁がネック状となり、屏風のように連なっている。西では、大林山を主峰とする山稜が連続し、上田・上山田・坂井との市町村界となって、一地域を構成している。

右岸地域の坂城・中之条・南条地区と左岸地域である村上地域は、したがって摺り鉢状の盆地形をなす千曲川流域の独立した空間であり、広谷状をなしている。地域の特徴として、右岸地域は、西南する広い斜面と、いくつかの小河川や沢によって、形成された複合扇状地と千曲川沿いの沖積地であり、左岸地域では、千曲川断層面のなす岩壁と小さな沢や岩堆、小複合扇状地というように様相を異にしている。

2) 歴史的環境

坂城町の自然堤防上や小河川によって形成された複合扇状地には、いくつもの遺跡が存在し、遺跡の性格も多種多様である。

旧石器時代では、保地遺跡(3-1)から上ケ屋型彫刻器や小型の槍先型尖頭器が数点採集されており、これらの遺物より後期旧石器時代に所属する遺跡であるとも考えられている。

縄文時代の遺跡では、込山A・B遺跡(30-1・2)から前期・中期の土器などが検出されている。金井遺跡(2-1)からは、中期の勝坂式土器や出尻土偶が採集されている。晩期では、保地遺跡(3-1、昭和40年調査)から亀ヶ岡系の土器群が出土している。また、込山E遺跡(30-5)からは、遮光器土偶の頭部が採集されている。

弥生時代では、中期以前の調査例がなく不明な状態である。後期後半の集落としては、中町遺跡(1-4)、塚田遺跡(1-7、平成4・5年度調査)、百々目利遺跡(1-3)のように千曲川の中洲上、或いは自然堤防上に位置する遺跡と、保地遺跡(3-1)のように千曲川の段丘上に位置する遺跡、和乎B遺跡のような高地性集落の可能性を秘めている遺跡も存在している。

古墳時代の集落址では、寺浦遺跡(8-2)や込山E遺跡(30-5)から4世紀代の土器が採

集されている。千曲川の自然堤防上と思われる東裏遺跡（1-1）、青木下遺跡Ⅱ（1-8）から後期の土器や祭祀遺物、集落址、祭祀遺構が検出されている。5世紀代に位置づけられる東平古墳の調査（平成5年度長野県埋蔵文化財センター）もある。坂城町の古墳は、未調査例が多く詳細が不明な状況ではあるが、大半が後期と思われる、河川沿いに立地している傾向が見られる。左岸に位置する御厨社古墳（47-1）は、石室の規模が千曲川水系最大の古墳である。

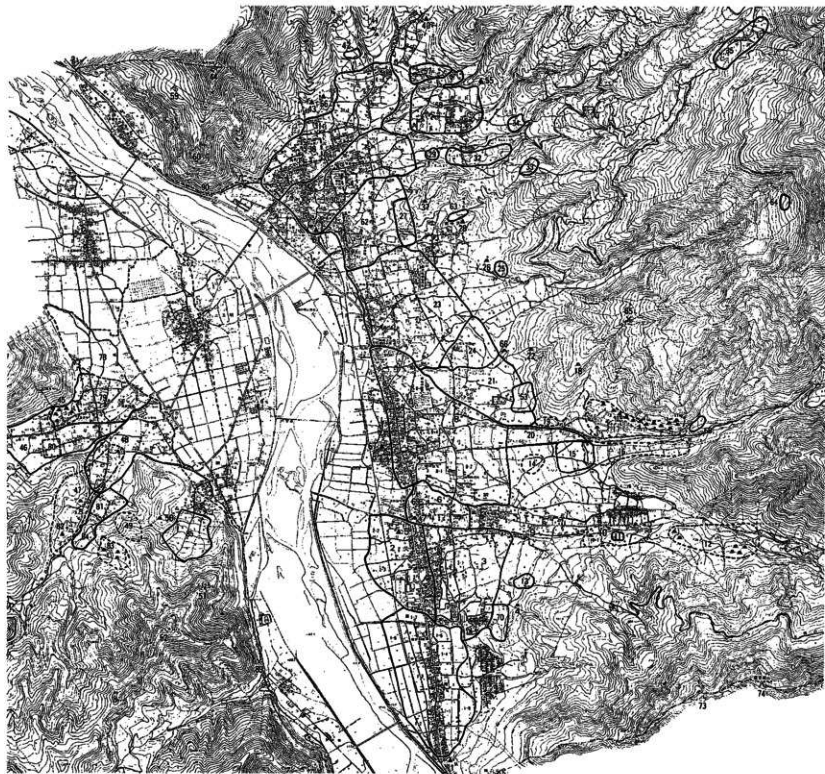
奈良時代では、東裏遺跡Ⅱ（1-1）、寺浦遺跡（8-1）、宮上遺跡Ⅱ（8-5）などから集落址の様相がおぼろげながら解明され始めている。生産遺跡としては、土井ノ入窯跡（32）があげられる。

平安時代では、東裏遺跡Ⅱ（1-1）から集落址が検出されている。また、中之条地区の寺浦遺跡（8-1）、宮上遺跡Ⅱ（8-5）などからも同時代の集落址が検出されている。生産遺跡では、青木下遺跡（1-8）、塚田遺跡（1-7）、上五明条里水田址（78）から仁和4年（888）に起きたとされる千曲川の大洪水の沈澱砂層に被覆された状態で、水田址が検出されている。他には、土井ノ入窯跡（32）の瓦窯があり、9世紀初頭と思われる込山廃寺（54）や上田市信濃国分寺・尼寺や更埴市正法廃寺の差し瓦の生産が指摘されている。経塚としては、11世紀末に位置づけられる北日名経塚（40）があり、銅製経筒、和鏡、白磁輪花小皿などが出土している。現在これらの遺物は、国立東京博物館に所管されている。

中世では、嘉保1（1094）年信濃国更級郡に配流された源盛清が始祖と考えられている村上氏が国人領主として成長した。戦国時代では武将村上義清が活躍し、東北信地方に勢力をふるった。その村上氏の城館が葛尾山頂に位置する葛尾城跡（44）であり、その下方にあり現在満泉寺の所在する一帯が村上氏館跡（38）である。葛尾城は天文22（1553）年、武田信玄の攻略により落城したため、現存していない。満泉寺は、天正10（1582）年に村上義清の子景国により、村上氏の先祖代々の菩提寺として建立されたとされている。その他生産遺跡として、開畝製鉄遺跡（53）があり、県内最初の製鉄遺跡の調査遺跡で、製鉄炉址2基が検出され、千曲川の砂鉄を原料としていたことや地元産の褐鉄鉱を使用していた可能性があることが判明した。稼業年代は、村上氏末期であり、鉄の自給の必要性の結果とも考えられている。

近世では、北国街道の制定により、坂木宿や松代藩の私宿である鼠宿がおかれたり、交通の上でも重要な位置を占めていた。坂木・中之条村は、幕府の直轄地で天領となっており、天和元（1681）年松代藩預かりになり、天和3（1683）年坂木藩となり、元禄16（1703）年再度天領に戻った経過がある。陣屋は、最初坂木におかれたが、宝暦9（1759）年中野陣屋預かりとなり、その後焼失した事もあり、安永8（1779）年中之条に陣屋が作られたとされている。

以上坂城町の遺跡から歴史について触れたわけであるが、古くから多種多様な遺跡が存在している状況が見てとれる。



岩手県遺跡分布図

図番(町)	遺跡名	種類	時代	図番(町)	遺跡名	種類	時代
1	南島遺跡群 南島遺跡	集落跡	弥生~平安	34	馬内遺跡	集落跡	平安
1-1	南島遺跡群 南島遺跡	集落跡	弥生~平安	35	平沢遺跡	集落跡	縄文
2	南島遺跡群 新島遺跡(瓦葺)	集落跡	弥生~平安	36	平沢遺跡	集落跡	縄文~平安
2-1	南島遺跡群 新島遺跡(瓦葺)	集落跡	弥生~平安	-1	新平遺跡群 新平大遺跡	集落跡	縄文~平安
2-2	南島遺跡群 新島遺跡(瓦葺)	集落跡	弥生~平安	-2	新平遺跡群 新平中遺跡	集落跡	縄文~平安
3	南島遺跡群 新島遺跡	集落跡	弥生~平安	-3	新平遺跡群 新平小遺跡	集落跡	縄文~平安
4	南島遺跡群 新島遺跡	集落跡	弥生~平安	-4	新平遺跡群 新平小遺跡	集落跡	縄文~平安
5	南島遺跡群 新島遺跡	集落跡	弥生~平安	-5	新平遺跡群 新平小遺跡	集落跡	縄文~平安
6	南島遺跡群 新島遺跡	集落跡	弥生~平安	37	金沢山内遺跡	古墳	古墳(後期)
7	南島遺跡群 新島遺跡(田石)	集落跡	弥生~平安	38	村上氏遺跡	城跡群	中世
8	南島遺跡群 新島遺跡	集落跡	弥生~平安	39	村上氏遺跡	城跡群	中世
2	金井河内遺跡群	集落跡	縄文~平安	40	北目名塚古墳群	古墳	古墳(中世)
2-1	金井河内遺跡群 金井河内遺跡	集落跡	縄文~平安	41	北目名塚古墳群	古墳	古墳(後期)
2-2	金井河内遺跡群 金井河内遺跡	集落跡	縄文~平安	-1	北目名塚古墳群 北目名塚1号墳	古墳	古墳(後期)
2-3	金井河内遺跡群 金井河内遺跡	集落跡	縄文~平安	-2	北目名塚古墳群 北目名塚2号墳	古墳	古墳(後期)
3	金井河内遺跡群	集落跡	縄文~平安	42	鳴ノ木遺跡	集落跡	縄文
3-1	金井河内遺跡群 鳴ノ木遺跡	集落跡	縄文~平安	43	西田遺跡	集落跡	縄文
3-2	金井河内遺跡群 鳴ノ木遺跡	集落跡	縄文~平安	44	西田遺跡	集落跡	縄文
3-3	金井河内遺跡群 鳴ノ木遺跡	集落跡	縄文~平安	45	西田遺跡	集落跡	縄文
4	聖ヶ谷古墳	古墳	古墳	-1	田原町古墳群 田原町支群1号墳	古墳	古墳(後期)
5	針原神社	社	中世	-2	田原町古墳群 田原町支群2号墳	古墳	古墳(後期)
6	針原神社	社	中世	-3	田原町古墳群 田原町支群3号墳	古墳	古墳(後期)
7	北郷古墳	古墳	古墳(後期)	-4	田原町古墳群 田原町支群4号墳	古墳	古墳(後期)
8	中之島遺跡群	集落跡	縄文~平安	-5	田原町古墳群 田原町支群5号墳	古墳	古墳(後期)
-1	中之島遺跡群 寺田遺跡	集落跡	縄文~平安	-6	田原町古墳群 田原町支群1号墳	古墳	古墳(後期)
-2	中之島遺跡群 寺田遺跡	集落跡	縄文~平安	46	田原町古墳群	集落跡	平安
-3	中之島遺跡群 寺田遺跡	集落跡	縄文~平安	47	田原町古墳群	集落跡	平安
-4	中之島遺跡群 寺田遺跡	集落跡	縄文~平安	-1	田原町古墳群 小野沢支群1号墳(田原町古)	古墳	古墳(後期)
-5	中之島遺跡群 寺田遺跡	集落跡	縄文~平安	-2	田原町古墳群 小野沢支群2号墳	古墳	古墳(後期)
1	鶴巻遺跡(堀古古)	古墳	古墳(後期)	-3	田原町古墳群 小野沢支群3号墳(ツツ子古)	古墳	古墳(後期)
10	谷川古墳群	古墳	古墳(後期)	-4	田原町古墳群 小野沢支群4号墳	古墳	古墳(後期)
-1	谷川古墳群 入澤尾古墳	古墳	古墳(後期)	48	小野沢古墳群	集落跡	弥生~平安
-2	谷川古墳群 入澤尾古墳	古墳	古墳(後期)	49	小野沢古墳群	集落跡	平安
11	入澤尾古墳群	集落跡	縄文~平安	50	小野沢古墳群	集落跡	平安
12	新川古墳群 上原支群	古墳	古墳(後期)	51	鳥取遺跡	集落跡	中世
13	新川古墳群	墳墓	平安~近世	52	三木城遺跡	城跡群	中世
14	新川古墳群 山崎支群	古墳	古墳(後期)	53	三木城遺跡	城跡群	中世
15	石塚遺跡	集落跡	縄文	54	込山内遺跡	集落跡	平安
16	新川古墳群 山崎支群	古墳	古墳(後期)	55	龍平寺遺跡	集落跡	中世
17	新川古墳群 山崎支群	古墳	古墳(後期)	56	新田小松治遺跡	集落跡	中世
-1	新川古墳群 山崎支群	古墳	古墳(後期)	57	龍平寺遺跡	集落跡	奈良~平安
-2	新川古墳群 山崎支群	古墳	古墳(後期)	58	新田小松治遺跡	集落跡	平安
-3	新川古墳群 山崎支群	古墳	古墳(後期)	59	富島崎小松治遺跡	集落跡	中世
-4	新川古墳群 山崎支群	古墳	古墳(後期)	60	成城遺跡	集落跡	中世
-5	新川古墳群 山崎支群	古墳	古墳(後期)	61	堀内大宮古墳群	集落跡	古墳
-6	新川古墳群 山崎支群	古墳	古墳(後期)	62	堀内大宮古墳群	集落跡	古墳
-7	新川古墳群 山崎支群	古墳	古墳(後期)	63	堀内大宮古墳群	集落跡	古墳
-8	新川古墳群 山崎支群	古墳	古墳(後期)	64	堂平寺遺跡	集落跡	平安
-9	新川古墳群 山崎支群	古墳	古墳(後期)	65	中之島古墳群	集落跡	古墳
-10	新川古墳群 山崎支群	古墳	古墳(後期)	66	中之島古墳群	集落跡	古墳
-11	新川古墳群 山崎支群	古墳	古墳(後期)	67	中之島古墳群	集落跡	古墳
-12	新川古墳群 山崎支群	古墳	古墳(後期)	68	成城遺跡	集落跡	平安
-13	新川古墳群 山崎支群	古墳	古墳(後期)	69	成城遺跡	集落跡	平安
18	新川古墳群 山崎支群	古墳	古墳(後期)	70	成城遺跡	集落跡	平安
19	新川古墳群 山崎支群	古墳	古墳(後期)	71	成城遺跡	集落跡	平安
20	新川古墳群 山崎支群	古墳	古墳(後期)	72	成城遺跡	集落跡	平安
21	新川古墳群 山崎支群	古墳	古墳(後期)	73	成城遺跡	集落跡	平安
22	大塚古墳	古墳	古墳(後期)	74	成城遺跡	集落跡	平安
23	新川古墳群 山崎支群	古墳	古墳(後期)	75	成城遺跡	集落跡	平安
24	成久遺跡	集落跡	古墳~平安	76	成城遺跡	集落跡	平安
25	成久遺跡	集落跡	古墳~平安	77	成城遺跡	集落跡	平安
26	成久遺跡	集落跡	古墳~平安	78	成城遺跡	集落跡	平安
27	成久遺跡	集落跡	古墳~平安	79	成城遺跡	集落跡	平安
28	成久遺跡	集落跡	古墳~平安	80	成城遺跡	集落跡	平安
29	成久遺跡	集落跡	古墳~平安	81	成城遺跡	集落跡	平安
30	成久遺跡	集落跡	古墳~平安	82	成城遺跡	集落跡	平安
-1	成久遺跡 成久遺跡(北)	集落跡	縄文~平安	-1	成久遺跡群 成久遺跡1号墳	古墳	古墳(後期)
-2	成久遺跡 成久遺跡(北)	集落跡	縄文~平安	-2	成久遺跡群 成久遺跡2号墳	古墳	古墳(後期)
-3	成久遺跡 成久遺跡(北)	集落跡	縄文~平安	-3	成久遺跡群 成久遺跡3号墳	古墳	古墳(後期)
-4	成久遺跡 成久遺跡(北)	集落跡	縄文~平安	84	成城遺跡	集落跡	縄文~平安
-5	成久遺跡 成久遺跡(北)	集落跡	縄文~平安	85	成城遺跡	集落跡	縄文~平安
31	日谷古墳群	集落跡	弥生~平安	86	成城遺跡	集落跡	平安
-1	日谷古墳群 日谷古墳	集落跡	弥生~平安	87	成城遺跡	集落跡	平安
-2	日谷古墳群 日谷古墳	集落跡	弥生~平安	88	成城遺跡	集落跡	平安
32	土井ノ入遺跡	集落跡	弥生~平安	89	成城遺跡	集落跡	平安
33	平林遺跡	集落跡	縄文	90	成城遺跡	集落跡	平安

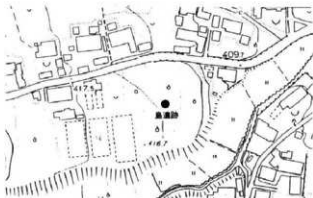


発掘調査位置図 (1 : 25000)

第II章 調査の結果

1 島遺跡

所在地	坂城町大字上平 1352-1他
事業主体	坂城町土地開発公社
事業名	宅地造成事業
調査期間	平成10年5月11日～ 5月15日
面積	5991㎡（約1212㎡）
担当者	助川 朋広



発掘調査位置図

遺跡の環境と経過

島遺跡は、坂城町上平に所在し、標高416.5m内外を測る。出浦沢川によって形成された扇状地の扇中部に位置する。分布地図では、弥生～平安時代の集落址に位置づけられ、昭和151年に実施された発掘調査では、古墳時代初頭～平安時代の住居址、中世の溝状遺構が検出されている。また、本遺跡の約300m西方に中世の村上氏館跡が所在し、館に関連する遺構の存在も予想される。

今回、宅地造成事業が計画され、遺跡の破壊が余儀なくされたため、試掘調査を実施し、遺跡の状況を確認することとなった。



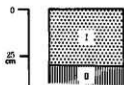
トレンチ完掘状況 南より



1・2号トレンチ検出状況 南西より

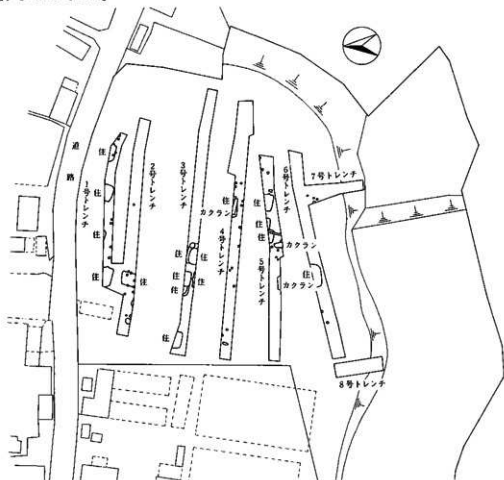
調査結果

開発対象地に合計8本のトレンチを入れ、遺構の存在の有無を確認した。開発対象地は、台地上と低地であったため、主に台地上の確認を行った。検出遺構には、古代に位置づけられる竪穴住居址、掘立柱建物址などや中世の竪穴状遺構等がある。調査の結果、古代集落以外に中世の館に関連すると思われる遺構が検出された。村上氏の起こりは、平安時代後期の呪詛事件（1094年）によって、当地に源盛清が配流されたことに起因するとされている。資料が少なく不明なところが多いが、周辺に関連遺構の存在が予想されるなど、坂城町にとっては重要な遺跡である。試掘調査の結果、対象地は記録保存を前提とした、発掘調査を実施することとなった。



Ⅰ層 暗褐色(10YR5/2)土、耕作土。
Ⅱ層 赤い黄褐色(10YR5/4)土、粘質土。
層(φ 1-2cm)含む。検出図。

基本土層模式図



発掘トレンチ設定図 (1 : 1000)

2 四ツ屋遺跡群

所在地	坂城町大字坂城 字唐鉢9202-1他
事業主体	坂城町土地開発公社
事業名	宅地造成事業
調査期間	平成10年11月12～ 11月14日
面積	2282㎡ (572㎡)
担当者	助川 朋広



発掘調査位置図

遺跡の環境と経過

四ツ屋遺跡群は、坂城町坂城に所在し、標高427.6m内外を測る。御堂川によって形成された扇状地の扇尖部に位置する。分布地図によると縄文～平安時代の集落址に位置づけられている。

今回、坂城町土地開発公社が行う宅地造成事業が計画され、遺跡の破壊が余儀なくされたため、遺跡の状況を確認するため試掘調査を行った。



1号トレンチ掘削状況 南東より

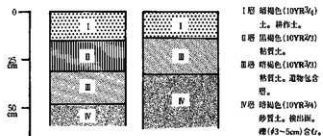
調査結果

本遺跡は、近隣の調査例がなく不明な部分が多いため、開発対象地において、4本のトレンチを東西方向に設定し、遺跡の状況を確認した。北側に設定した1・2号トレンチの東側から縄文土器の検出があり、遺物包含層である事が判明した。基本層序の第Ⅲ層

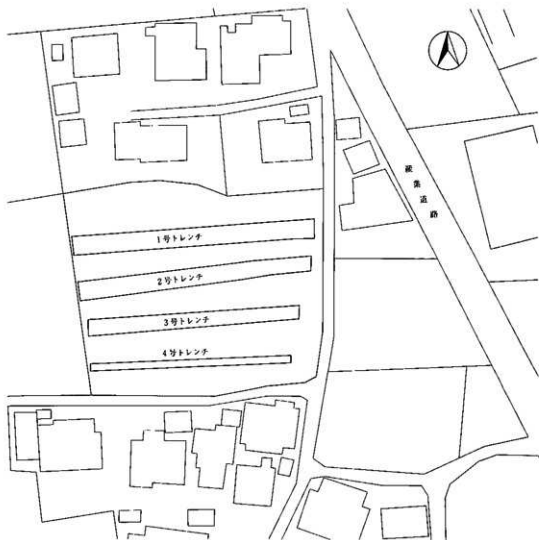


トレンチ完掘状況 東より

がこれにあたるが、縄文土器の出土量は決して多いとはいえない結果であった。第Ⅲ層の堆積状況は、2号トレンチ以北に見られるものと予想できる。試掘調査の結果、遺構は対象地の北東部に存在している可能性がある事が判明した。



基本土層模式図



発掘トレンチ設定図 (1:800)

3 上五明条里水田址 7

所在地 坂城町大字村上1148
事業主体 ちくま農業協同組合
事業名 店舗建設事業
調査期間 平成11年1月27日
面積 151㎡ (29㎡)
担当者 助川 朋広



発掘調査位置図

遺跡の環境と経過

上五明条里水田址は、坂城町上五明、網掛、上平に所在する千曲川によって形成された沖積地に所在し、標高398m内外を測る。分布地図によると平安時代～近世の水田址とされている。平成6・8年の発掘調査によって、仁和4(888)年に起きたとされる千曲川の大洪水によって被害を受け、一過性の土砂によって水田址が被覆された状態で検出されている。また、平成9年度の発掘調査では、平安時代に位置づけられる竪穴住居址の検出があり、集落址と水田址に遺跡が分かれる事が判明した。

今回、ちくま農業協同組合による店舗建設が計画され、遺跡の破壊が余儀なくされ、遺跡の状況を確認する事を目的として、試掘調査を実施することとなった。



TP1 検出状況 東より

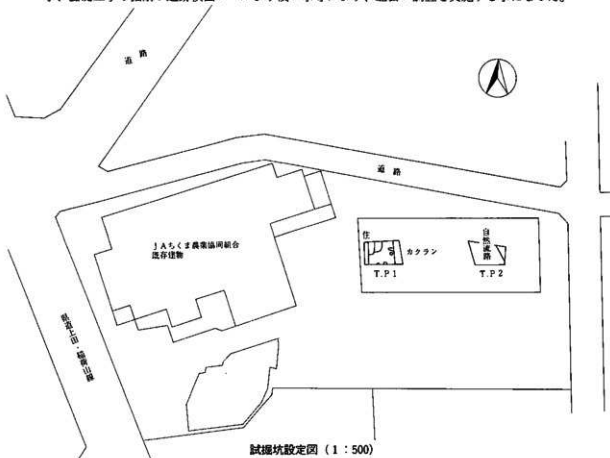
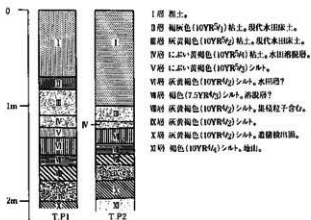


TP2 検出状況 西より

調査結果

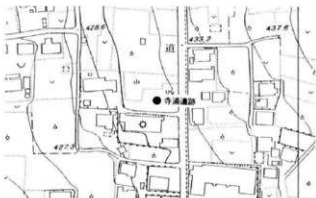
試掘調査は、店舗建設予定地を対象として、2箇所の試掘坑により、遺跡の状況を確認した。当初トレンチを設定したが、かつて建設されていた建物の地下室らしき攪乱が、深く存在する事が判明したため、攪乱を避けられるように試掘坑に変更した。調査の結果、T.P.1から古代に属すると思われる竈穴住居跡等の検

出があり、T.P.2からは自然流路が検出された。検出レベルは、現地表面から約2mと深い事も判明した。今回の調査によって、対象地は集落址の一端である事が判明したが、攪乱部分が多い事、基礎工事の掘削が遺跡検出レベルより浅い事等により、立会い調査を実施する事になった。



4 寺浦遺跡

所在地	坂城町大字中之条 4508-1
事業主体	平林 忠
事業名	店舗建設事業
調査期間	平成11年2月3日
面積	547㎡ (140㎡)
担当者	助川 朋広



発掘調査位置図

遺跡の環境と経過

寺浦遺跡は、坂城町中之条に所在し、標高429m内外を測る御堂川によって形成された扇状地の扇中央部に所在する。分布地図によると縄文～平安時代の集落址とされ、平成6年度に行った発掘調査では、古墳時代後期と思われる大型の掘立柱建物址の検出やH8号住居址から平安時代の緑釉陶器片が出土していることから、一般集落ではなく郷家の存在を予想できる古代の集落址である可能性が認められた。

今回、コンビニエンスストア（セーブ・オン）の建設事業が計画され、遺跡の破壊が余儀なくされたため、試掘調査を実施し、遺跡の範囲・性格を確認することとなった。



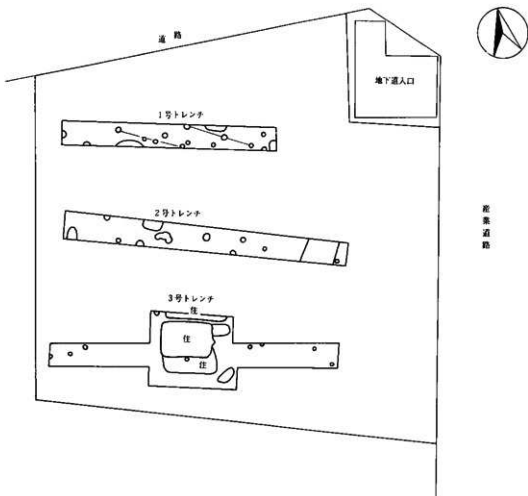
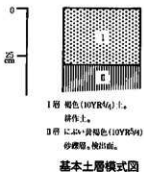
1号トレンチ検出状況 西より



2号トレンチ検出状況 西より

調査結果

調査対象地の東西方向に3本のトレンチを設定し、遺跡の状況を確認した。1号トレンチから掘立柱建物址、3号トレンチから竪穴住居址の検出があり、以前実施された同遺跡のあり方に大差がないように思われた。建設事業は、埋土によって造成されるため、基本的には盛土保存とし、削平によって破壊される部分については、立会い調査を実施する事となった。



試掘トレンチ設定図 (1:300)

5 上五明条里水田址 8

所在地	坂城町大字網掛 1524-1他
事業主体	坂城町総務課
事業名	コミュニティ消防 センター建設事業
調査期間	平成11年2月24日
面積	979.9㎡ (50㎡)
担当者	助川 朋広



発掘調査位置図

遺跡の環境と経過

上五明条里水田址は、坂城町上五明、網掛、上平に所在し、標高401m内外を測る千曲川の沖積地に所在する。分布地図によると平安～近世の水田址とされ、上五明地区での発掘調査では、仁和4（888）年に起きたとされる千曲川の大洪水の際の泥蓋沈殿砂層によって、被覆された水田址が検出されている。

今回、坂城町総務課によるコミュニティ消防センターの建設事業が計画され、遺跡の破壊が余儀なくされたため、試掘調査を実施し、遺跡の状況を確認した。



TP1掘削状況 南より



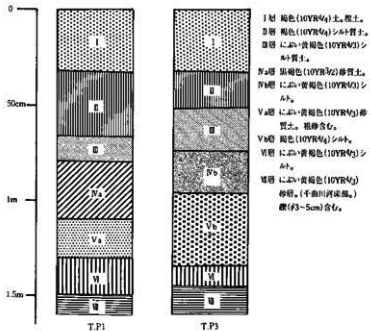
完掘状況 南より

調査結果

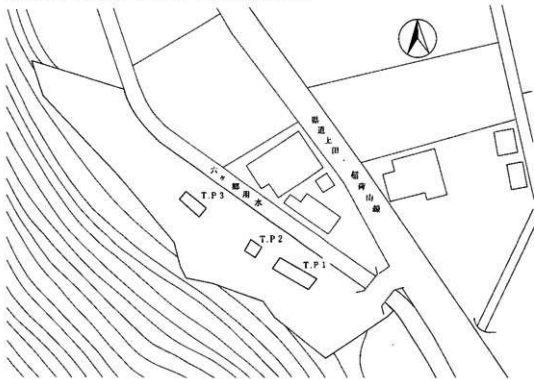
対象地に3箇所の試掘坑を設定し、遺跡の有無の確認を行った。基本土層は、上層に山からの堆積土、下層には、千曲川の堆積土が見られ、約1.5mで千曲川の河床と思われる砂礫層が、確認された。調査の結果、平安時代～近世の水田址は存在しない事が判明した。

今回の調査地は、西側の山の裾部であるため、水田址が存在しないものと思われる。

水田址は、より北側に存在しているものと考えられる。



基本土層模式図



試掘坑設定図 (1:800)

6 田町遺跡群

所在地	坂城町大字坂城 5938-3他
事業主体	坂城町土地開発公社
事業名	宅地造成事業
調査期間	平成11年2月25日
面積	2500㎡ (349㎡)
担当者	助川 朋広



発掘調査位置図

遺跡の環境と経過

田町遺跡群は、坂城町坂城に所在し、標高415m内外を測る入田川、日名沢川によって形成された扇状地の扇中部に所在する。分布地区によると古墳～平安時代の散布地とされている。

今回、坂城町土地開発公社による宅地造成事業が計画され、遺跡の破壊が余儀なくされたため、試掘調査を実施し、遺跡の状況を確認することとなった。



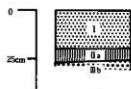
トレンチ完掘状況 南東より

調査結果

調査対象地に3本のトレンチを設定し、遺跡の確認を行った。遺構の検出面は、基本層序第Ⅲ層と思われるが、2号トレンチでピット状の落ち込みを確認できた以外、遺構は検出されなかった。検出されたピット状の落ち込みも明確に遺構とは断定できない。



2号トレンチ掘削状況 東より



東側



西側

I層 黄灰色(2.5Y4/2)粘土。現代水田床土。

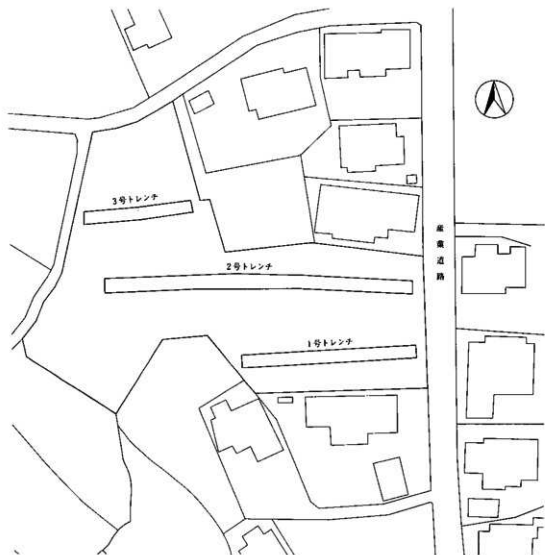
IIa層 灰色(N4/6)粘土。水田土壌。

IIb層 褐色(7.5YR4/6)土。水田沖積層。

IIIa層 褐色(10YR4/6)粘質土。

IIIb層 明黄褐色(10YR6/6)粘質土。横出層。
礫(45mm~2cm)少量含む。

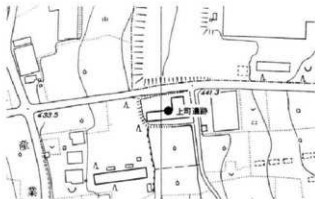
基本土層模式図



試掘トレンチ設定図 (1 : 800)

7 上町遺跡

所在地	坂城町大字中之条 1328-1
事業主体	(株)天田不動産
事業名	宅地造成事業
調査期間	平成11年2月26日
面積	1099㎡ (204㎡)
担当者	助川 朋広



発掘調査位置図

遺跡の環境と経過

上町遺跡は、坂城町中之条に所在し、標高438m内外を潤る御堂川によって形成された扇状地の扇央部に所在する。分布地帯によると弥生～平安時代の集落址とされている。平成6年度実施された発掘調査では、竪穴住居址、掘立柱建物址の検出があり、古代集落の一端が解明されている。

今回、株式会社天田不動産による宅地造成事業が計画され、遺跡の破壊が余儀なくされたため、試掘調査を実施し、遺跡の状況を確認することとなった。

調査結果

調査対象地に2本のトレンチを設定し、遺跡の確認を行った。対象地は、かつて建物が建設されており、建設時の基礎部分は攪乱されている事に加え、

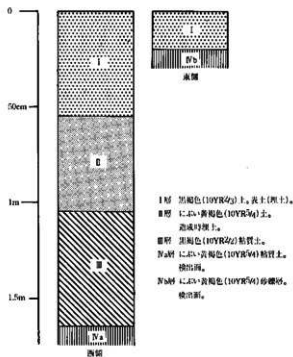


遺構近景 南東より

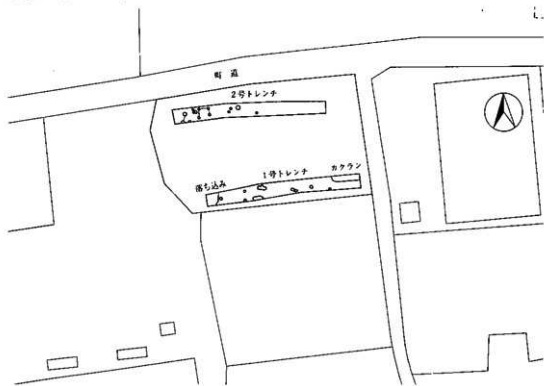


2号トレンチ検出状況 西より

東側は削平を受け、西側は造成によって埋土されていた。調査の結果、東側では遺構の検出が少なく、西側の深いところでは、地表面から約1.7mのところまで遺構が検出されている。2号トレンチでは、掘立柱建物址と思われるピットの検出があり、古代集落の存在を確認できた。調査の結果、造成による遺構の破壊部分は、立会い調査を実施する事となった。



基本土層横式図



試掘トレンチ設定図 (1 : 800)

報告書抄録

ふりがな	ちょうないいせきはくつちようきほうこくしょ							
書名	町内遺跡発掘調査報告書 1998							
副書名	平成10年度試掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	板城町歴史文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第14集							
編著者名	塩入秀敏・助川朋広							
編集機関	板城町教育委員会							
所在地	〒389-0602 長野県埴科郡板城町大字中之条2468 TEL0268-82-2069							
発行年月日	1999年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東緯 °' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
島遺跡	埴科郡板城町大字上平	1521		36° 26' 37"	138° 9' 55"	1998年 5月11日～5月15日	1212	宅地造成事業
西ツ屋遺跡群	埴科郡板城町大字坂城	1521		36° 27' 11"	138° 11' 40"	1998年 11月12日～11月14日	572	宅地造成事業
上五明条 里水田址7	埴科郡板城町大字上五明	1521		36° 26' 40"	138° 10' 23"	1999年 1月27日	29	店舗建設事業
寺浦遺跡	埴科郡板城町大字中之条	1521		36° 26' 32"	138° 11' 52"	1999年 2月3日	140	店舗建設事業
上五明条 里水田址8	埴科郡板城町大字新井	1521		36° 26' 16"	138° 10' 43"	1999年 2月24日	50	コミュニティ活動センター建設事業
田町遺跡群	埴科郡板城町大字坂城	1521		36° 27' 36"	138° 11' 22"	1999年 2月25日	349	宅地造成事業
上町遺跡	埴科郡板城町大字中之条	1521		36° 26' 36"	138° 11' 56"	1999年 2月26日	204	宅地造成事業
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
島遺跡	集落址	奈良～中世	住居址、土坑址	土師器、須恵器	試掘調査			
西ツ屋遺跡群	散布地	縄文～平安	なし	縄文土器	試掘調査			
上五明条 里水田址7	水田址、集落址	古墳～平安	住居址	土師器	試掘調査			
寺浦遺跡	集落址	古墳～平安	住居址	土師器	試掘調査			
上五明条 里水田址8	水田址	平安～近世	なし	なし	試掘調査			
田町遺跡群	散布地	古墳～平安	なし	なし	試掘調査			
上町遺跡	集落址	古墳～平安	竪立柱建物址	土師器	試掘調査			

坂城町埋蔵文化財発掘調査報告書

	〔開畝製鉄遺跡－第1次調査報告書〕	1977
	〔開畝製鉄遺跡－第2次調査報告書〕	1978
	〔東裏遺跡〕	1983
	〔中之条遺跡群 宮上遺跡Ⅱ〕(概報)	1993
	〔南条遺跡群 塚田遺跡〕	1993
第1集	〔南条遺跡群 東裏遺跡Ⅱ・青木下遺跡〕	1994
第2集	〔町内遺跡発掘調査報告書〕	1994
第3集	〔町内遺跡発掘調査報告書〕	1995
第4集	〔南条遺跡群 塚田遺跡Ⅱ〕	1995
第5集	〔豊饒堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡〕	1996
第6集	〔中之条遺跡群 寺浦遺跡Ⅱ〕	1996
第7集	〔中之条遺跡群 上町遺跡Ⅱ〕	1996
第8集	〔上五明条里水田址〕	1996
第9集	〔町内遺跡発掘調査報告書 1995〕	1996
第10集	〔坂城町試掘調査・立会い調査報告書〕	1996
第11集	〔町内遺跡発掘調査報告書 1996〕	1997
第12集	〔戌久保遺跡・町横尾遺跡〕	1998
第13集	〔込山B遺跡ほか 発掘調査報告書 1997〕	1998
第14集	〔町内遺跡発掘調査報告書 1998〕(本書)	1999

発行日 1999年3月25日

編集者 坂城町教育委員会

発行者 坂城町教育委員会

〒389-0602 長野県埴科郡坂城町大字中之条2,468番地

TEL 0268(82)2069

印刷者 信毎書籍印刷株式会社

〒381-0037 長野市西和田470

TEL 026(243)2105